

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式・論述式・選択式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は3題で変化ない。ページ数(昨年5ページ,今年6ページ)が増加したが,設問の総数はほぼ同じで,全体としての分量も変わらない。

論述問題の数(昨年4題,今年8題)は増加したが,導出過程を記述する計算問題の数(昨年3題,今年2題)は1題減少した。Ⅲの4.の論述は考察力が必要で難しい。Ⅲの5.は題意がつかみにくいものの,計算自体は平易である。その他は煩雑な計算もなく取り組みやすかった。全体としての難易は昨年と同程度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題,答の導出過程を記述する問題が例年どおり出題された。また,答の数値に関する桁数の指定がなく,自ら判断する計算問題も出題された。

歴史的な実験装置・実験方法に関する問題も例年と同様に出現された。

新課程を踏まえた出題

Ⅱの4.ではエンタルピー変化を付した反応式が示されていた。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述, 論述	有機	化学	芳香族化合物(構造決定, 反応, 分離)	やや易
II	記述, 選択 論述, 計算	理論, 無機	化学基礎 化学	水酸化ナトリウム・水素の製造(イオン交換膜法) 同位体 分子からなる物質の沸点 アンモニアの分解	やや易
III	記述, 選択 論述, 計算	理論, 無機	化学	鉄と希硝酸の反応に関する実験 一酸化窒素と酸素および二酸化窒素と水の反応	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基礎～標準的な難易度の問題が大部分を占めるが,一部,思考力・応用力を要する問題も含まれる。

基礎力を確立した上で,数多くの演習問題にあたり,思考力・応用力を培うよう努めること。論述問題が頻出なので,理由説明や推論の過程,答の導出過程を簡潔に記述する練習も日ごろから積んでおくこと。また,実験操作や実験結果を予測したり考察する問題が出題されることもあるので,実験に関する問題にも意識的に取り組んでおきたい。